

クビアカツヤカミキリの防除対策

モモ用リーフレット版

クビアカツヤカミキリは、幼虫がモモやサクラなどの樹木の内部を食い荒らす外来生物です。被害が進むと、木が弱りやがて枯れてしまいます。

本県では、平成27年7月に板野町内のモモ園で初めて被害や生息が確認され以来、鳴門市や上板町のモモ産地にも分布を拡大しています。

被害の拡大を食い止めるためには、見つけたら早期に防除することが重要です。

なお、本虫は**特定外来生物**に指定されており、飼養等（飼育・栽培・保管・運搬・販売・譲渡・輸入・野外への放出等）が原則として禁止されています。つまり、採集した個体を飼育したり、移動させる、さらに他の地域へ放つと法律によって罰せられます。

クビアカツヤカミキリとは、

● 成虫

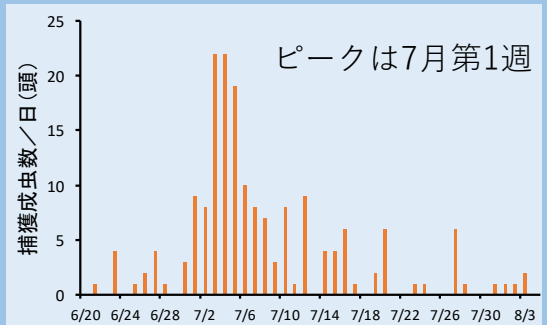
- 体長は2.5～4cm程度で、全体が光沢のある黒色をし、胸部が赤く突起状になっているのが特徴です。
- 本県では例年、6月下旬から8月上旬に樹から羽化脱出し、雌は交尾後モモやサクラなどの幹や太い枝の粗皮の裂け目などに、乳白色の卵を300個程度、産みつけます。

● 幼虫

- 乳白色のイモムシ状で、ふ化した後に樹の中で2年かけて成長します。つまり、3年目の初夏に蛹となります。
- 若齢の時は樹皮下を、その後成長に従い、形成層、木部へと食い進んでいきます。
- モモのほかに、ハナモモ、スモモ、ウメ、アンズ、サクラも食害します。



クビアカツヤカミキリ成虫
※ 雄の触覚は、体長の2倍程度で雌と区別するポイント。



モモ園における成虫の発生消長



卵は約10日でふ化

樹皮の隙間に産卵された卵



モモ樹内より採取した幼虫



樹皮下の形成層を食害

樹幹内の幼虫とせん孔

◆ モモ栽培における防除体系モデル ◆

作業項目等		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
モモ生育期（徳島県）		休眠期		開花		果実肥大・成熟期				休眠期				
主な栽培作業		剪定	摘雷	受粉	摘果袋掛			収穫	台風対策、施肥等				剪定	
防除対策	被害樹の伐採・抜根													
	成虫捕殺													
	幼虫刺殺													
	ネット等の被覆					被覆			撤去					
	薬剤防除	幼虫 対象												
		成虫 対象												
		卵及び若齢幼虫 対象												
クビアカツヤカミキリの生育(概略)	1年目							産卵	ふ化			幼虫期		
	2年目												幼虫期	
	3年目				幼虫期	蛹期		成虫期						

※カミキリ成幼虫と被害樹に、■の時期にそれぞれの対策を実施してください。詳細は以下をご覧ください。

◆ 成虫の対策 ◆

- ✓ 発生時期となる6月下旬から園地内をよく見廻り、発見次第**捕殺**します。梅雨時期は主幹下部でよく見付き、降雨のあった翌日の晴天日に発生が多い傾向があります。梅雨明け後は動きが素早くなり、日中は樹冠内に潜んでいます。
- ✓ 捕獲時に刺激のある分泌物を出すことがあるので、手袋を着用します。
- ✓ 以下の**登録農薬**を発生時期には樹全体に、収穫後には樹幹に散布します。

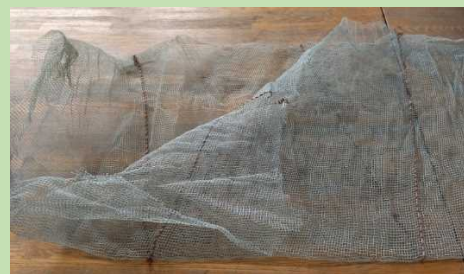
農薬の名称	希釈倍数	使用時期	使用方法	使用回数
モスピラン顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	散布	3回以内
アクタラ顆粒水溶剤	2,000倍	収穫前日まで	散布	3回以内
テッパン液剤	2,000倍	収穫前日まで	散布	2回以内

- ✓ 樹から羽化脱出する個体の拡散を防止するため、樹幹に**ネット等**を被覆します。

ネットの被覆方法

準備物

1. 廃漁網など
2. ビニールテープ、またはマイカ線など
3. はさみ、またはカッターナイフ



- 幅150cm程度に切断
- 二つ折りにし2重とする

◆ 幼虫の対策 ◆

- ✓ フラス(木くず)が排出される時期に、排出口からドライバーなどで樹皮を剥がしながら食入孔を探り、幼虫を発見次第、刺殺します。
- ✓ 樹皮を剥がした部分には、保護資材を塗布します。
- ✓ 食入孔を探索しても幼虫が奥深くにいるなどで発見できないときは、排出口にエアゾール剤(ロビンフッド)のノズルを突っ込み薬液を噴射します。



幼虫の刺殺



エアゾール剤の樹幹内噴射

◆ 被害樹の処分 ◆

- ✓ 食害を受けた樹木は、**伐採・抜根**します。
- ✓ 伐採した幹・枝は、園地に放置せず、チップー等による細断や地中への埋設などで処理します。
- ✓ 抜根ができないときは、切株を厚手のシート等で被覆するか覆土します。



伐採した被害樹の切株
右は悪い事例、抜根できない場合は、左のように地際で切断し、シート等で被覆する。

巻き付け方法

1. 作業は**二人以上で実施**します。ひとりが網を固定し、もうひとりが巻き付けていきます。
2. 木の最下部より、上方へ包帯のようにらせん状に巻き付けます。
3. **ビニールテープ**、または**マイカ線**で巻き付けた網の重なったところを固定します。



● 被害の特徴

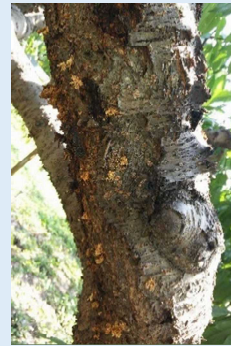
- ✓ 成虫は、樹液や傷んだモモの果汁などを食べますが、葉や樹を食害することはありません。
- ✓ 幼虫は、5月から10月に樹内を摂食しながらせん孔します。その際に**フラス(フン、木くずと樹液が混じったもの)**を大量に排出し、それが被害の目印となります。



鳥が啄んだ果実を摂食中の成虫



幼虫によるモモの被害樹
大量のフラスが目印



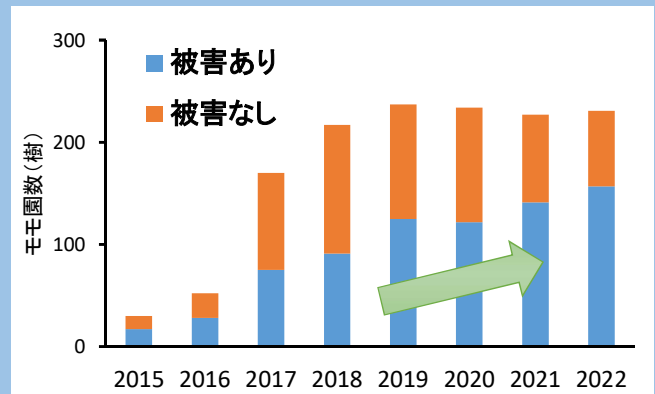
多数孔より排出



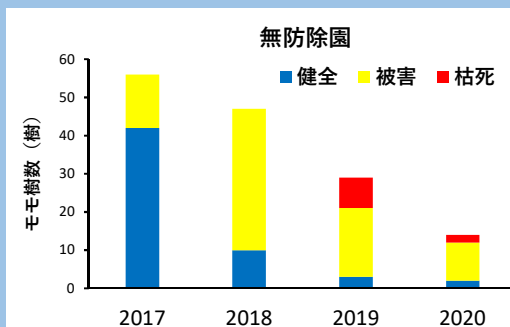
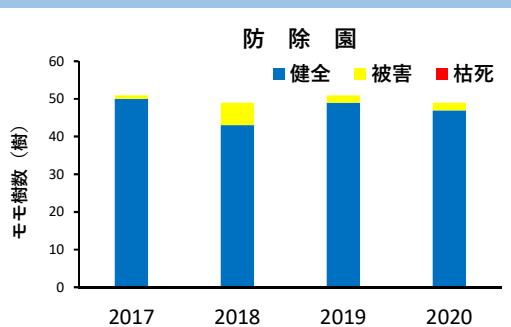
形状の異なるフラス

モモの被害は産地全体に広がっています。

- ✓ 被害は、平成27年(2015年)に板野町で確認されて以降、産地全体として増加傾向にあります。特に、ここ数年は分布を広げた近隣の鳴門市、上板町で顕著になっています。
- ✓ 被害の程度は、園地によって異なり、防除対策の取組みの有無やその程度の違いによるものと考えられます。



県北東部のモモ産地における被害園の発生推移



管理方法の異なるモモ園での被害発生状況

※ 左グラフは毎年、防除対策を実施、右グラフは無防除、右写真は無防除園の様子。

◆ クビアカツヤカミキリの防除に関するお問合せは ◆

◆ 病害虫防除所: 674-1954

◆ 高度技術支援課: 674-1922

本資料の一部は、農研機構「イノベーション創出強化研究推進事業(課題番号30023C)サクラ・モモ・ウメ等バラ科樹木を加害する外来種クビアカツヤカミキリの防除法の開発」による成果をもとに作成しています。

発行: 令和4年11月 徳島県立農林水産総合技術支援センター